競技注意事項

１．　競技規則について

本大会は、２０２６年度日本陸上競技連盟競技規則ならびに大会規定に準じて行うが、参加者の年齢段階を考慮し、競技を進行する。

２．　練習場及び練習について

（１）補助競技場（武道館南側）の使用時間は、午前８時から最終競技招集完了時刻までとする。補助競技場に出入りできる者は競技者及び引率者・保護者とする。補助競技場へは引率者同伴で行くこと。**練習は競技役員の指示を守り、安全に十分注意して練習すること。練習以外のために使用することは認めない。**

（２）練習時のレーン使用区分は、原則として次のとおりとする。

◇１、２レーンは１０００ｍ・８００ｍ走

◇ホームストレート３～６レーンは短距離走　　◇バックストレート３～８レーンはリレー

◇ホームストレート７レーンは８０ｍＨ走、８レーンは６０ｍＨ走（必要に応じてレーンを増やす）

◇フィールド内（芝生）はボール投げ（ウォームアップ場係の指示に従うこと）、跳躍ピットは走り幅跳び・走り高跳び（準備が出来次第、競技役員の指示に従って行うこと）

※　練習器具は、ソフトボール（グラブ）、バトン以外は持ち込まない。

※　リレーに使用するスタートマークは使用者または引率者が責任をもって取ること。

３．　競技者の招集方法について

（１）競技に出場するためには、受付をし、決められた時間内に招集場所での係員による受付（コール）が必要。**招集場所は全種目第１ゲート内**である。**２種目出場していて選手が招集場所に行けない場合は、１種目目の招集時に２種目目招集を合わせて行うこと。**招集所へ移動する際、そのまま競技に参加できるよう（スパイクは手に持ち、上着は着用してよい）準備をしておく。

（２）4×100m リレーに出場するチームは、エントランスの諸届け受付にあるリレーオーダー用紙に記入し、８時２０分までに諸届け受付に提出すること。

（３）**招集は、競技開始４０分前から始め、２０分前までに完了**とし、競技役員の最終点呼を受ける。なお、トイレに行くなどやむをえない場合のみ、競技役員に申し出て許可を得ること。同時にアスリートビブス・腰ナンバー標識、シューズ、衣類など、競技場内への持ち込み物品などの確認を受ける。

４．　アスリートビブス（ナンバーカード）・腰ナンバー標識（腰ゼッケン）について

（１）アスリートビブスは、ユニフォームの胸に固定する。

（２）トラック競技に出場する競技者は、写真判定用に、競技役員より受け取った腰ナンバー標識を所定の位置（右側の腰辺り）に付けること。

５．　競技について

（１）その競技に出場している競技者以外は、競技場内（トラック･フィールド）に立ち入ることはできない。

（２）決勝の組み合わせ、及びレーン順、試技順は競技場用コンピュータにより公正に番組編成する。

トラック競技について

（１）１００m走･６０mH走･８０mH走･4×100m リレーの出発姿勢は**クラウチングスタート**とする。スタートはイングリッシュコマンドで行う。２回目以降に不正スタートをした競技者を失格とする。その場合、走ることはできるが、参考記録とする。（順位に反映されない）

（２）１００m走･６０mH走･８０mH走･4×100m リレーの各走者は、自他の安全のため、審判の指示があるまで自分の割り当てられたレーン内にとどまる。

（３）4×100m リレーのバトンパスは、３０mのテイクオーバーゾーン内で行う。

（４）バトンは大会が用意したものを使用する。**スタートマークを使用したいチームは、主催者が準備した黄テープを招集所で受け取る。**スタートマークは各自１箇所のみの使用とする。ただし、使用したチームはレース後、責任をもってテープを取るようにする。

（５）スターティングブロックは、１００m走・６０mH走・８０mH走・4×100m リレーで使用してもよい。すぐ設置できるよう練習しておくこと。

（６）１００m走･６０mH走･８０mH走は、タイムレースとし、決勝進出できる競技者は８名とする。ただし、８番目の記録と同記録（0.001 秒での判定）の者が複数で９名になる場合は、９レーンを使用してレースを

行う。また、１０名以上の場合は、８番目の記録と同記録の者により抽選を行い、決勝進出者を決定する。
（７）４・５年の4×100ｍリレー・１０００ｍ走･８００ｍ走は、予選を行わず、タイムレース決勝とする。
（８）リレーのみエントリーの競技者で、補欠や不測の事態などでリレーに出場しなかった競技者（希望者）を対象に、１００ｍ走友好レースを行う。友好レースについては、１００ｍ走種目の順位に含めない。

フィールド競技について

（１）走り幅跳びとソフトボール投げは、まず３回の試技を行い、記録の上位８名の選手は、さらに３回の試技を行うことができる。８位の競技者が複数出た場合は、２番目以降の記録で順位決定を行う。順位決定については、合計６回の試技全ての記録により決定する。
（２）走り高跳びは、以下のルールで競技を行う。
①走り高跳びは、はさみ跳びとし、マットへの着地は足裏からで、背中、腰からの着地は無効試技とする。
②マーカーが必要な競技者は主催者が用意したものを使用する。なおマーカーは各ピットで競技役員が配付し、助走路に２個まで置くことができる。
③バーの上げ方は、５ｃｍとする。
〇男子…（１２０ｃｍ・・・練習）１２０、１２５、１３０、１３５、１４０ｃｍ……
〇女子…（１１５ｃｍ・・・練習）１１５、１２０、１２５、１３０、１３５ｃｍ……
但し、競技者が一人になった場合には、本人の希望の高さで試技を続けることができる。また、１位が複数の時には、２ｃｍの幅の増減により順位を決定する。

６．　表彰について

各種目１位～８位までに賞状を渡す。（１位～３位については表彰式を行う。４位～８位については代表者がエントランスホールに取りに来ること。）

７．　競技用靴について

（１）競技用靴は**運動靴または陸上競技用スパイクシューズ**（ピンの数は１１本以内の平行ピン、長さ９mm以下）とし、ニードルピン及び素足は認めない。１０００ｍ走･８００ｍ走は、スパイクシューズを認めない。
（２）スパイクシューズの着用は、競技場内のトラック･フィールド部分のみとし、スタンドや通路、正面玄関前では絶対着用しないこと。
（３）競技で使用するシューズの底の厚さの規定は設けないが、**県学童記録・大会記録が出た場合、２０mm以下のシューズでなければ記録として認められないので注意すること（その場合、シューズの計測を行うことがある）**

８．　その他

（１）競技結果は、アナウンス及び岡山陸上競技協会ホームページで随時紹介する。（プログラム最終ページのＱＲコードから閲覧可能）
（２）本競技会では、競技者は全員傷害保険に加入する。競技中に発生した傷病・疾病については医務室（エントランスホールから入り、ダッグアウト下の通路をゴール方向に行ったところ）で手当てをするが、傷害保険の加入範囲及び現場での応急処置以外の責任を主催者は一切負わない。また、応急処置後の治療費は個人負担とする。なお、本競技会に関わる全ての人の感染に対する責任を主催者は一切負わない。
（３）貴重品の管理は各自で行う。紛失・盗難にあっても主催者はその責任は一切負わない。
（４）競技場は禁煙である。また、その他の競技場使用マナーを遵守すること。（よごさない・傷つけない・迷惑をかけない・けがをしない・させない。）
（５）プログラム記載事項に訂正がある場合は、出場競技の招集開始前までに責任者が「プログラム訂正届」をエントランスの諸届け受付に提出すること。
（６）スタンド最前列での通路に立っての応援及びホームスタンドでの声をそろえての応援は禁止とする。
（７）1000m 走、800m走に出場する選手は、当日朝に、「長距離種目出場者体調管理チェックシート」へ必ず回答する。体調が優れない場合は、健康・安全を最優先とし、棄権も含めて参加の可否を判断すること。
（８）本大会は学校単位での参加登録となるため、クラブチーム等のユニフォームを着用する場合は、アスリートビブスなどで、クラブチーム名が見えないようにすること。リレー種目では、走者全員が同系統のものに服装をそろえること。